

長崎県公立大学法人の令和３事業年度 に係る業務の実績に関する評価結果

令和４年１１月

長崎県公立大学法人評価委員会

目 次

長崎県公立大学法人の令和3事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

1. 全体評価	1
2. 項目別評価	
(1) 大学の教育研究等の質の向上	3
(2) 業務運営の改善及び効率化	5
(3) 財務内容の改善	6
(4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	6
(5) その他業務運営	6

◎項目別評価の結果

項 目	事項数	I	II	III	IV	III以上(%)
(1) 大学の教育研究等の質の向上	40	0 (0)	4 (3)	25 (25)	11 (12)	90.0
(2) 業務運営の改善及び効率化	7	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	100.0
(3) 財務内容の改善	3	0 (0)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	100.0
(4) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	4	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	100.0
(5) その他業務運営	2	0 (0)	1 (0)	1 (2)	0 (0)	50.0
合 計	56	0 (0)	5 (3)	39 (40)	12 (13)	91.0

注1) () 内の数字は、法人の自己点検・自己評価の結果

IV…「年度計画を上回って実施している」
 III…「年度計画を順調に実施している」
 II…「年度計画を十分に実施できていない」
 I…「年度計画を実施していない」

長崎県公立大学法人の令和3事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

長崎県公立大学法人評価委員会は、「長崎県公立大学法人の評価の基本方針」「長崎県公立大学法人の各年度終了時の評価に係る実施要領」「第3期中期計画・年度計画の評価基準」に基づき、長崎県公立大学法人の令和3事業年度に係る業務の実績に関する評価を行った。

1 全体評価

第3期中期計画期間の5年目となる令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大により就職支援や実践的な教育プログラムである長期インターンシップの実施、公開講座の開催などにおいて大きな影響があったが、オンラインを活用するなどの工夫により、積極的に教育、研究、地域貢献に取り組んでいる。

学生の自主的な地域活動に対する支援に関しては、「やるばいプロジェクト」において6件の事業を採択し経済的な支援も含めたサポートを行ったことは評価できる。佐世保のまちを元気にし、活性化を図ることを目標に商店街のシャッターに佐世保の風景を描いた「シャッターアート」の学生の活動が地域活性化につながったことを評価する。

また、地域の政策課題に関する研究活動においては、連携協定を締結した市町や長崎県議会との連携事業の実施に加え、五島市・森永乳業・長崎新聞社・長崎県と「五島市における健康寿命延伸についての包括的連携協定」を締結し、五島市における健康寿命延伸に関する調査研究に取り組むとともに、学長プロジェクト研究においても「大学発：県内企業の海外進出支援フォーラム」を開催するなど積極的に取組を進めたことを評価する。

さらに、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大する中、ワクチン接種者の増加が大きな課題であったことから、大学を新型コロナウイルスワクチン接種の拠点施設として提供し、学生や教職員の接種を促進することに加え、自治体等と連携し地域住民のワクチン接種の促進に取り組み、感染拡大防止活動に貢献したことを評価する。

その他、教員の個別指導や学生の意識醸成などにより各学科で掲げる高い目標を多くの学科で達成したことや就職率、共同研究・受託研究数、研究論文や学会発表数、外部資金の獲得が順調に推移していることを評価する。

しかしながら、県内就職率を向上させる目標及び学生に専門知識や技術、外国語運用能力を早期に修得させるための、3年修了時までに9割以上の学生が卒業要件を達成する目標については、前年度を上回る成果が見られるものの、目標達成には至っていないことから、要因分析を通して具体的な方策を検討し、より効果的な取組が実施されることを期待する。

一方、県内就職率の増加に大きな影響を与える大学入試における「県内志願者増に向けた取組」については、大学入試共通テスト県内志願者のうち、県立大学一般選抜の志願者が占める割合は、24.5%と前年度より4.2ポイント増加しており、「大学の県内高校生の受入促進」に向けた大学の取組を評価し、県内就職率の向上に向けてこの取組をさらに強化していくことを期待する。なお、県内就職率については、学科ごとの就職率の乖離が大きく、一部の学科（看護学科）では、44%の目標値を達成している。教育目標や県内就職の必然性、地域のニーズ等は、学科によって異なることが予想されるので、学科の特徴、県内企業等のニーズなどを考慮した目標達成に向けての取組を計画的に行うことも必要である。

評価委員会の全体評価としては、90%を超える事項（51項目）について年度計画を達成して（評価Ⅲ及びⅣ）おり、第3期中期計画期間5年目の令和3年度の事業は着実に実施されていると判断し評価する。しかし、未達成となっている事項が4項目あり、これらの項目については引き続き改善を図り、最終年度の令和4年度には、全ての項目について第3期中期計画の最終目標を達成できるよう計画的に取組を推進していくことを期待している。

一方で、令和3年度には、入学試験の一般選抜（前期日程）において合否判定ミスが発生している。公平・公正な手続きの基で行われることが大前提とされる大学入試の合否判定において重大なミスが発生したことは評価委員会としても大変遺憾であり、見過ごすことができない。事案発生後、直ちに、追加合格者全員を個別に訪問しお詫びとミスの原因等について説明するなど、大学として当然行うべき対応がとられたことは認めるものの、大学のガバナンスに対する社会の評価に直結し、大学への信頼を揺るがしかねない重大なミスであり、これまでに大学が築き上げてきた経営基盤にも悪影響を及ぼしかねない。加えて令和3年度においてはメール誤送信のミスも発生している。県民等から信頼される大学として、二度と同様な事案が発生しないよう、理事長・学長のリーダーシップのもと、教職員は常に緊張感を持って取り組むことを強く求める。

令和4年度は第3期中期計画期間の最終年度となるが、「高校生に選ばれ、県民や地元企業等の期待に応えられる、魅力ある大学」「地方創生に貢献し、地域とともに発展する大学」を目指し、第3期中期計画の目標達成に向けた取組を着実に進めることを期待する。

2 項目別評価

(1) 大学の教育研究等の質の向上

- ① 教育に関する目標
- ② 研究に関する目標
- ③ 地域貢献に関する目標

本項目については、年度計画の記載40事項中37事項を「年度計画を順調に実施している(Ⅲ)」又は「年度計画を上回って実施している(Ⅳ)」と認め、進行状況は「おおむね計画通り進んでいる」と判断した。

令和3年度の実績のうち、下記の事項を特に評価する。

- 各学科では、より高い教育目標を掲げ、学生に対し様々な支援を行っている。経営学科、実践経済学科では、難易度の高い資格の取得、情報セキュリティ学科では、学生が「九州・大学発ベンチャービジネスコンテスト」においてグランプリを受賞したほか、学会・研究会・シンポジウムへの投稿・発表など掲げる高い目標を達成し、看護学科では国家試験合格率100%を達成したことを評価する。(3-2)
- 外国語によるコミュニケーション能力を修得させるため、国際経営学科、国際社会学科において、一部の専門教育科目は計画通り英語または中国語により開講しており、全体として計画を上回った取組を進めていることを評価する。(3-3)
- 学生の自主的な活動への支援として、「やるばいプロジェクト」において6件の事業を採択し、経済的支援を含めたサポートを行い、約30名の学生が参加し地元商店街の5店舗のシャッターに佐世保の風景を描いた「シャッターアート」の取組は、地域活性化に貢献した。また、この取組は、新聞やテレビなど多くのメディアに取り上げられ、大学のプレゼンスのアピールに繋がったものと評価する。(6-3)
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響がある中、オンラインを活用しながらキャリアコンサルタント等による個別説明会、就職ガイダンスや各種イベント等、きめ細かな就職支援や企業訪問に組織的に取り組むなど教職員一体となって学生に対するキャリア支援を行い、国際社会学部、看護栄養学部における100%をはじめ、達成水準を上回る就職率を達成したことを評価する。(7-1)
- 県や市町、企業等のニーズにあった研究の取組については、連携協定を締結した市町や長崎県議会との連携事業の実施に加え、五島市における健康寿命延伸に関する調査研究の実施や学長プロジェクトで採択した「長崎県内企業の海外事業展開プロジェクト」において「大学発：県内企業の海外進出支援フォーラム」を開催する

など県や市町のニーズを反映した研究に積極的に取り組み、実施結果の情報発信に取り組んでいることを評価する。（１１－１）

- 教員の研究論文数、学会発表数、著書数については、各教員が長期研究計画書を作成し、計画的に研究に取り組み、４３０件の実績となっており、引き続き計画目標を上回っていることを評価する。（１２－１）
- 共同研究、受託研究については、企業等からの依頼に応え、地域連携センターにおけるコーディネート業務を通して、大学が持つシーズとのマッチングを図り、地方自治体や企業等との研究が、昨年度を上回る４８件の実績となっており、産学官連携の取組が推進されていることを評価する。（１４－１）
- 新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大する中、大学を新型コロナワクチンの接種拠点（佐世保校、シーボルト校）として提供し、佐世保商工会議所、長与町と連携し、学生・教職員のみならず、地域住民のワクチン接種者の拡大に寄与し、地域の感染拡大防止に貢献したことを評価する。（１６－２）

令和３年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- ３年修了時までに９割以上の学生が卒業要件を修得するという目標については、各学科において個別面談や試験対策講座の実施、また、受験状況を教員間で連携して管理し指導に反映するなど卒業要件の早期取得に取り組んだものの、全ての学科で目標未達成となっている。７学科中５学科で８割以上を達成するなど前年度に比べ進捗はみられるものの、第３期中期計画が始まって以降、現在までに目標を達成した学科が一つもないことから、教職員、学生のさらなる努力により、第３期中期計画期間中に卒業要件の早期取得を達成する取組を進めることを期待する。（３－１）
- 栄養健康学科では、管理栄養士国家試験対策委員会で学生に対する支援を検討し、ビデオ会議システムを利用した対策講座、模擬試験や個別面談の実施や「学習記録表」を活用した指導のほか成績不振者に対する学習状況の管理、確認テストの実施などの取組は評価できるものの、管理栄養士国家試験の合格率は、昨年度に引き続き国公立大学平均を下回る結果となっている。支援効果の検証を行いながら学生をサポートすることで、目標に掲げる合格率１００％を達成することを期待する。（３－２）
- 県内就職率については、３３．２％と前年度より３．５％ポイント増加しているものの、中期計画の目標である４４％とは、大きな乖離がある。県内就職率向上においては、学生の希望やスキルを活かせる受け皿となりうる県内企業の拡大も重要

な課題であるが、大学においても、昨年度、評価委員会として取りまとめた「県内就職率向上に向けた取組に対する意見書」も踏まえ、県内就職を支援する専門人材の活用などによる大学と企業のマッチング強化の取組や高い県内就職率が見込める県内生の入学促進など県内就職向上プロジェクトチームを中心に、中期計画期間の目標達成に向けた実効性のある取組を期待する。（８－１）

【法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項】

○中期計画〔１０－１、２、３〕の年度評価 評価委員会の評価「Ⅱ」（法人の評価「Ⅳ」）

中期計画１０「アドミッション・ポリシーに沿った入学者を確保するため、大学を取り巻く環境の変化や入学者の成績状況を考慮に入れながら、入学者選抜を不断に見直し必要に応じて改善を図る。また、高大連携等を推進し、県内志願者の獲得に努める。」に関しては、①入試の実施、分析、見直し、②各種広報、③県内志願者増に向けた取組の３つの視点で評価することとなっている。

視点③の「県内志願者増に向けた取組」については、大学入試共通テスト県内志願者のうち、県立大学一般選抜の県内志願者が占める割合は、２４．５％と前年度より４．２ポイント増加していることから、評価基準に照らし、評価Ⅳ「年間計画を上回って実施している」に該当する実績を積んでおり、大学の自己評価「Ⅳ」は妥当であると判断する。しかし、視点①の「入試の実施」に関しては、「一般選抜入試試験における合否判定ミス」が発生しており、この予期せぬ重大なミスは社会的に許されない、あるまじき極めて重大な事案であり、年度計画を実施していない「Ⅰ」に相当するものと判断し、本項目に関しては、上記①～③の視点を総合的に評価することとし、評価を「Ⅱ」に変更する。

（２）業務運営の改善及び効率化

- ① 組織運営の改善に関する目標
- ② 人事の適正化に関する目標

本項目については、年度計画の記載７事項すべてを「年度計画を順調に実施している（Ⅲ）」と認め、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断した。

令和３年度の実績のうち、下記の事項を特に評価する。

- 大学の重要課題に的確に対応するため、大学院博士後期課程準備プロジェクトチームを立ち上げ博士後期課程の開設に向けた準備を進めるなど、理事長・学長を中心とした取組を進めていることや教育開発センターにＩＲ部会を新たに設置し、教学ＩＲの基盤づくりに取り組んだことを評価する。（１８－１）

（３）財務内容の改善

- ① 外部資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標
- ② 効率的な運営に関する目標

本項目については、年度計画の記載３事項を「年度計画を順調に実施している（Ⅲ）」又は「年度計画を上回って実施している（Ⅳ）」と認め、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断した。

令和３年度の実績のうち、下記の事項を特に評価する。

- 科学研究費等、外部資金の獲得については、採択件数及び金額ともに目標値を上回ったことを評価する。科学研究費の獲得は、大学の研究の質の向上につながるものであり、今後も引き続き、研究の質の高度化を図っていくとともに、外部資金の獲得に努めていくことを期待する。（２４－１）

（４）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供

- ① 評価の充実に関する目標
- ② 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

本項目については、年度計画の記載４事項すべてを「年度計画を順調に実施している（Ⅲ）」と認め、進行状況は「計画通り進んでいる」と判断した。

令和３年度の実績のうち、下記の事項を特に評価する。

- 令和３年４月に大学ホームページをリニューアルし、教育研究に関する情報や新型コロナウイルス感染症に関する対応など県民に分かりやすく情報を公表したほか、オープンキャンパスにおいては、来場形式に加え Web オープンキャンパスを開催するなど取組を進めており、今後も大学の魅力や活動を県民に広く伝えるため、積極的な情報の発信を期待する。（２８－１）

（５）その他業務運営

本項目については、年度計画の記載２事項のうち１事項が「年度計画を十分に実施できていない（Ⅱ）」と判断されるため、進行状況は「やや遅れている」と判断した。

【法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項】

- 中期計画〔30－1〕の年度評価 評価委員会の評価「Ⅱ」（法人の評価「Ⅲ」）
個人情報や重要情報の保護の観点から、情報セキュリティ向上のため、教職員を対象とした情報セキュリティ研修会を開催したほか学内ネットワークの強化のための脆弱性診断においては高い評価を得るなど、その取組は進められている。しかしながら令和4年2月にメールの誤送信が発生しており、事案発生後、迅速に対応し誤送信による被害発生等はなかったものの、個人情報保護の観点からも重大なミスであり、総合的に判断し評価を「Ⅱ」に変更する。
今後、このようなミスが二度と発生しないよう、情報セキュリティ研修会への全教職員の参加を促し、関連規程の点検・整備など再発防止に取り組むことを求める。